

内分泌疾患のマネジメントがわかりにくい、そもそも疑えない、といった現場の実情が少なからずあります。なかには「地雷」ともなりかねない禁忌や、絶対見逃してはいけない事例がまぎれこんでいます。本特集ではまず、「疑わなければわからない」との観点から、最低限、何を知っておかなければいけないかを提示します。そのうえで、自分たちでみてよい疾患なのか、どこから専門家にコンサルトするか、また専門家から引き継いだときのフォローアップをどうするか、などが理解できてはじめて、その地域や施設の状況にあわせてカバーすべき範囲が明確になります。さらに、クリーゼ、妊娠・出産、眼症、遺伝性疾患などは、病態生理を知り、すみやかにコンサルトすべきことを理解していなければなりません。引き継ぎは確定診断のあとか？ ARRのスクリーニングをやってからなのか？ 負荷試験はホスピタリストで行ってもよいのか？ といった疑問に対しては、病態、エビデンス、エキスパートオピニオンに加え、専門家の思考回路や、ガイドラインでの扱いをふまえた実践面がフォローされるものを目指し、専門家とホスピタリストのスムーズな連携につなげていきたいと思います。

総論 ホルモンの病態生理学

Part 1 「内分泌疾患を疑うきっかけは？」

- 第1章 健康診断から疑う内分泌疾患
- 第2章 症状から疑う内分泌疾患
- 第3章 画像から疑う内分泌疾患
- 第4章 一般的な検査値から疑う内分泌疾患
- 第5章 病歴から疑う内分泌疾患

Part 2 「どこまでを専門家がみて、どこから総合内科医がみるのか？」

- 第6章 甲状腺 [甲状腺結節、橋本病、潜在性甲状腺機能低下症、亜急性甲状腺炎、甲状腺中毒症、Basedow病]
- 第7章 副腎 [原発性アルドステロン症、偽性アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎偶発腫瘍、Cushing症候群、副腎不全あるいは副腎皮質機能低下症]
- 第8章 副甲状腺 [副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症]
- 第9章 下垂体 [SIADH、中枢性尿崩症、下垂体卒中、高プロラクチン血症、下垂体炎、Acromegaly、Cushing病]
- 第10章 その他 [ビタミンD欠乏症、骨粗鬆症、隣神経内分泌腫瘍]

Part 3 専門家からのメッセージ、共有したい知識

腎血管性高血圧、ホルモンへ影響を与える薬剤、サルコペニア・フレイルと内分泌疾患、乳がん：ホルモン治療や早期閉経にかかわる影響、内科で知っておくべき内分泌疾患（泌尿器科、婦人科、小児科）

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

● BackNumber

- | | |
|-----------------|---------------------|
| ■ Vol.1 (2013年) | No.3 感染症2 |
| No.1 ホスピタリスト宣言 | No.4 老年科 |
| No.2 感染症 | ■ Vol.6 (2018年) |
| ■ Vol.2 (2014年) | No.1 腎疾患2 |
| No.1 腎疾患 | No.2 糖尿病 |
| No.2 膠原病 | No.3 肝胆脾 |
| No.3 消化管疾患 | No.4 心不全 |
| No.4 緩和ケア | ■ Vol.7 (2019年) |
| ■ Vol.3 (2015年) | No.1 外来マネジメント |
| No.1 呼吸器疾患1 | No.2 総合内科のための集中治療 |
| No.2 外来における予防医療 | No.3 抗血小板薬、抗凝固薬のすべて |
| No.3 循環器疾患1 | No.4 内科エマージェンシー |
| No.4 血液疾患 | ■ Vol.8 (2020年) |
| ■ Vol.4 (2016年) | No.1 アレルギー |
| No.1 代謝内分泌 | No.2 画像診断①胸部・縦隔編 |
| No.2 周術期マネジメント | No.3 手技 |
| No.3 腫瘍 | No.4 病棟管理 |
| No.4 他科の知識1 | ■ Vol.9 (2021年) |
| ■ Vol.5 (2017年) | No.1 膠原病2 |
| No.1 神経内科 | No.2 内分泌2 |
| No.2 呼吸器疾患2 | No.3 不整脈 |

2014年の「膠原病」特集を振り返ってみますと、内科学の醍醐味たる診断アプローチ、入院における緊急重症病態の理解が目標に掲げられ、診断/分類基準が続々と発表され、新たな治療も導入されて「いわば氷河期から比べると、我々は革命的時代にいます」と宣言されていました。各論では、RA、SLE、リウマチ性多発筋痛症、GCA、血管炎、多発性筋炎/皮膚筋炎、全身性強皮症、痛風/偽痛風/化膿性関節炎、脊椎関節炎、Behçet病、Sjögren症候群などが取り上げられ、大幅な増ボリュームでお届けしていました。時を経た今回の続編。おそろそろ踏み出した世界もまた、裾野の広い、威容を誇る山脈でした。それぞれの山道からは派生ルートが導かれ、編集はまた長い旅路となりました。山道があるということは、それを開拓した先人がいるということです。そんな連想が楽しい「巨人の肩の上」からの景色を、ぜひご堪能いただければと思います。さらに続編の山容が見えているかもしれません。

● 広告一覧

- | | |
|---------------|-------------|
| 医学書院…162, 229 | 日本医事新報社…132 |
| 金原出版…92 | めどはぶ…60 |
| 南山堂…251 | 羊士社…221 |

Vol.9 No.1 2021年7月29日発行

Hospitalist

(1部) 定価：本体4,600円＋税
2021年年間購読料：19,360円（4冊，税込，送料弊社負担）

ISBN 978-4-8157-2001-8

発行者 金子 浩平

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL：http://www.medsico.jp Eメール：hospitalist@medsico.jp
振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161
広告取扱 メディカルブレーン 電話03-3814-5980
日本医学広告社 電話03-5226-2791
文京メディカル 電話03-3817-8036
福田商店広告部 電話06-6231-2773

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為（複写、スキャン、デジタルデータ化など）は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的（診療、研究活動を含む）で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。